

2021年6月27日

2021 FRJ 開幕戦岡山大会 Race2

片山義章選手が古谷悠河選手との一騎打ちを制し、開幕2連勝!

2021 Formula Regional Japanese Championship(フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ)のRace 2が岡山国際サーキットで行われ、ポールポジションからスタートした6号車の片山義章選手(OIRC F111/3)が開幕2連勝を飾りました。



前日のRace 1はドライコンディションでのレースとなりましたが、夜の間に雨が降り、コースは朝からウエットコンディションとなりました。スタート進行で各車がグリッドを後にした頃ようやくコンディションが少し回復しつつあったものの、グリッドの内側をはじめ、コースの一部には濡れている箇所があったため、ドライバーが安全にコース状況を確認できるように、レース開始直前にセーフティカー先導でのスタートが決定しました。

3周にわたって隊列走行が行われ、4周目に入るところからオーバーテイクもOKになり、ポールポジションの片山選手を先頭に各車が1コーナーへ飛び込んでいきました。

前日のRace 1では、序盤から片山選手が後続を圧倒するペースを披露しましたが、2番手を走る28号車の古谷悠河選手(TOM'S YOUTH)も前日のを上回るペースでトップに食らいついていきます。

後方では、12番グリッドからスタートした30号車、DRAGON選手(B-MAX ENGINEERING FRJ)のマシンにトラブルが発生しピットイン。終盤にはマシンを修復しコースに復帰しましたが、マスタークラスのトップ争いから脱落することとなりました。

レース中盤に入っても、トップの2台は一進一退の攻防を繰り返しました。片山選手が9周目に1分27秒277を刻むと、10周目には古谷選手が1分27秒194で最速タイムを更新します。すると、片山選手も負けじと11周目に1分27秒160を叩き出し、ファステストラップを奪い合うレベルの高いバトルとなりました。

一方、マスタークラスでは、総合5番手からスタートした39号車、田中優暉選手 (ASSCLAYIndサクセスES) が序盤から好ペースで周回。前半はRace1で総合3位となった87号車の塩津佑介選手 (Power s MP F111) を抑え込む走りを見せました。

総合トップ争いは、最後まで片山選手と古谷選手が、2秒を切る間隔でプレッシャーをかけ合っていました。片山選手が最後まで隙を見せず、そのままトップチェッカー。見事開幕2連勝を飾りました。

古谷選手は2位となり、2戦連続の表彰台。3位には8号車を駆った三浦愛選手 (ARTA F111/3) が入り、FRJで今季初表彰台を獲得するとともに、ドライバーズランキングも3番手に浮上しました。

マスタークラスは、終始安定した走りを披露した田中選手が2連勝を飾り同クラスのポイントランキング首位をキープ。2位に96号車、TAKUMI選手 (B-MAX ENGINEERING FRJ)、3位に27号車、今田信宏選手 (JMS RACING with B-MAX) が入りました。

今週末最後のレースとなるRace3は14時40分から18周で争われる予定です。

◆Race2 優勝 片山義章選手コメント

「初めてポールポジションからのセーフティカースタートだったので、いつも(ライバルに)いかについていかを考えていたんですが、今日は逆にどう引き離すかを考えていきました。思い切りギャップを広げることができませんでした。うまくスタートできたと思います。その後は古谷選手とのギャップを見ながら、あまりプッシュをせずに走っていました。シフトダウンの症状も前半は出ていましたが、原因がわかったので、次のレースでは直ると思います。Race3は周りのドライバーがみんな新品タイヤを履いてくると思うので、ユーズドの自分はちょっと厳しい戦いになるかもしれませんが、頑張りたいと思います」

◆Race2 マスタークラス優勝 田中優暉選手

「僕自身、セーフティカースタートは慣れていますが、ちゃんとタイヤが温まるまで(SC先導で)回ってくれたので、安全にスタートできました。オーバーオール選手についていこうと思いましたが、難しかったですね。まだまだ課題があるなと思いましたが、これから何とかついていけるとように速くなりたいなと思います。今日はコース上で勝負しての結果なのでスッキリしていますし、楽しくレースができました」

以上



オーバーオール表彰台



マスタークラス表彰台

